

HIV感染症・エイズ



公益財団法人エイズ予防財団
Japan Foundation for AIDS Prevention

エイズ流行40年

1981年アメリカで初めてエイズが報告されて以来40年が過ぎました。この間エイズは世界中に拡がり、多くの国々に深刻な影響を与えてきました。

HIV（エイズの原因となるウイルス）の流行が始まってから、およそ8560万人がHIVに感染し、4040万人がエイズによって亡くなったとされています。

エイズ(AIDS)とは

エイズは、**A**cquired **I**mmuno **D**eficiency **S**yndrome の頭文字を取ったもので、日本語では後天性免疫不全症候群と言います。エイズは、HIVというウイルスに感染し、免疫力が低下することによって発症する病気です。

世界の状況

2022年末現在、世界中で3900万の人々がHIVとともに生きています。

2022年1年間にHIVに感染した人は130万人で、15歳未満の子どもが13万人含まれています。エイズで亡くなった人は年間で63万人でした。

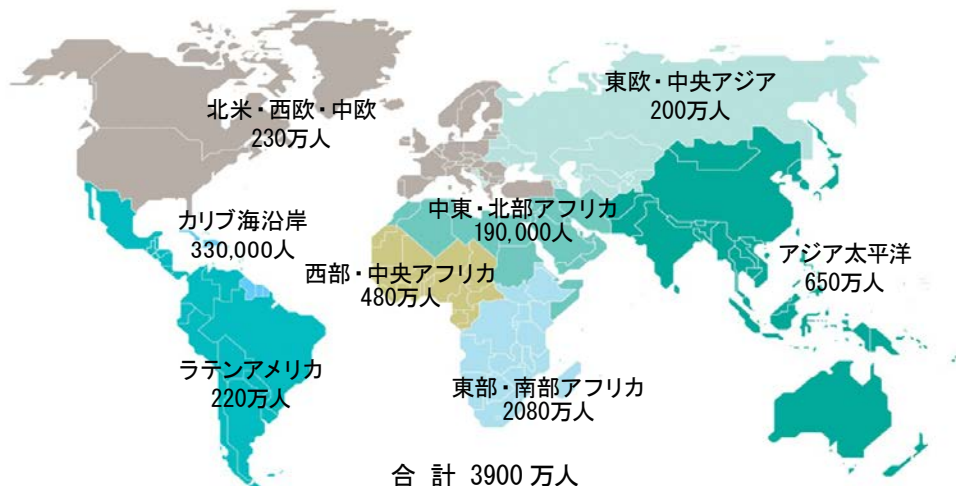
世界では1日におよそ960人の若者（15～24歳）がHIVに感染しています。

★HIV陽性者:3900万人

★新規HIV感染者:130万人

★エイズによる死亡者:63万人

地域別HIV陽性者数(2022年末・推計)

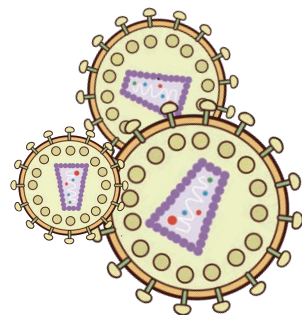


エイズ(AIDS)とHIV

HIVとは、**H**uman **I**mmunodeficiency **V**irusの頭文字を取ったもので、ヒト免疫不全ウイルスのことです。免疫のしくみの中心であるヘルパーTリンパ球（CD4細胞）という白血球などに感染し、からだを病気から守っている免疫力を低下させていきます。

**エイズは病気の名前、
HIVはエイズを引き起こすウイルスの名前です。**

HIVに感染してもすぐにエイズを発症するわけではありません。感染から数週間以内に風邪に似た症状が出る場合がありますが、その後は何年も症状のない状態が続きます。



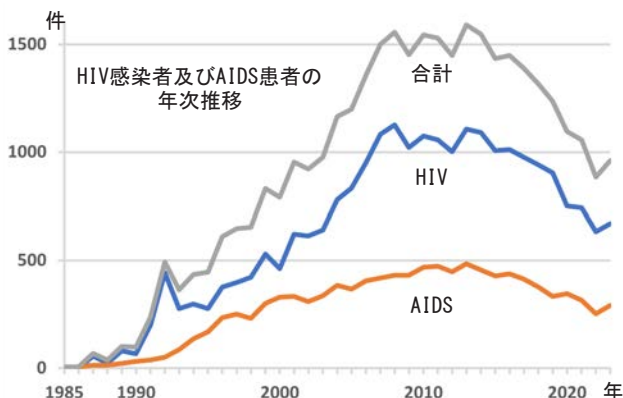
その間、免疫力は徐々に低下し、やがて本来なら自分の力で抑えることのできる病気を発症するようになってしまいます。抵抗力が落ちることで発症する疾患のうち、代表的な23の疾患を発症するとエイズ発症と診断されます。

日本の流行の状況

2023年の新規HIV感染者・エイズ患者報告数は960件で、前の年を上回りました。感染経路としては、性的接触によるものが80%以上で、その多くが男性同性間の性的接触によるものです。新規報告者数のうちおよそ3割がエイズを発症して見つかっています。自身がHIVに感染していることを知らない人が、数多く存在するとも推定されています。新型コロナウイルス流行時のHIV検査減少や、梅毒など他の性感染症の増加もあり、今後の状況に注意が必要です。

- ★新規HIV感染者:669件
(2022年632件)
- ★新規エイズ患者:291件
(2022年252件)
- ★累計報告数:35,381件

*厚生労働省エイズ動向委員会
2024年3月26日発表速報値



HIVの感染経路

よく、「感染した人を刺した蚊に刺されても大丈夫ですか？」とか「軽いキスで感染する可能性はありますか？」など質問がありますが、このようなことで感染することはありません。

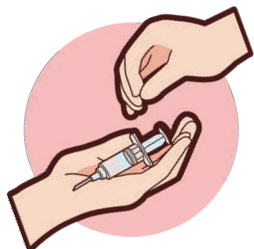
HIVの感染力は弱く、性行為以外の社会生活のなかでうつることはまずありません。HIVは主に3つの経路で感染します。

性行為による感染

性行為による感染は最も多い感染経路です。

HIVは主に血液や精液、膻分泌液に多く含まれています。

HIVは感染者の血液・精液・膻分泌液から、その性行為の相手の性器や肛門、口などの粘膜や傷口を通してうつります。性行為におけるコンドームの正しい使用は、HIV感染症・エイズ予防にとって有効な手段です。



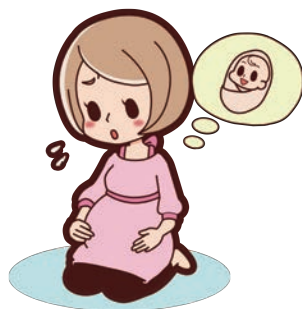
血液を介しての感染

HIVが存在する血液の輸血や、覚せい剤などの“回し打ち”による注射器具の共用などによって感染します。

日本では、現在、献血された血液は厳重な検査により最高水準の安全が確保されており、感染の可能性はきわめて低くなっています。

母親から赤ちゃんへの母子感染

母親がHIVに感染している場合、妊娠中や出産時に赤ちゃんに感染することがあります。母乳による感染の例もあります。日本では、お母さんがHIV感染症の治療薬を飲むことや母乳を与えないことで、赤ちゃんへの感染を1パーセント以下に抑えることができます。



HIV感染を予防するワクチンはまだありません。

正しい知識を身につけて、常に感染を防ぐ方法を実行することが重要です。

HIV感染を予防するには

HIV 感染の最も多い感染経路は性行為です。
HIV 感染を防ぐためには、必ずコンドームを使用すること、
また、パートナーに使用してもらうことが重要です。



お酒を飲み過ぎたり、薬物を使用したりしているときは、
コンドームを最初から最後まで、正しく着けることが難しく、せっかくの予防も中途
半端になってしまうので避けてください。

性感染症が増えています

性感染症 = S T I (Sexually Transmitted Infection) は性行為で感染する病気の
総称で、若者を中心に感染者が増加しています。具体的には、梅毒、淋病、性器
クラミジア感染症など10種類以上あり、HIV感染症・エイズも S T I の一つです。
S T I に感染したら放置せず、パートナーと一緒に治療を受けるようにしてください。

● 主な性感染症(STI)の特徴と症状

病 名	特 徴	症 状	
		男 性	女 性
梅毒	皮膚や粘膜の小さな傷から細菌が侵入して感染し、やがて全身に広がり、さまざまな症状を引き起こす。	感染後約3週間で、感染部位に大豆くらいの赤くてかたい、痛みのないしこりができる。	
性器クラミジア感染症	男女ともに感染者が多い。	尿道に軽い炎症を起こし、排尿時にしみる。尿道から薄い分泌液が少し出る。	不正子宮出血や軽い下腹部痛、性交痛
淋菌感染症(淋病)	最近とくに男性の間で感染が広がっている。	尿道炎になり、強い排尿痛、尿道口に発赤。尿道から濃い黄白色の分泌物が多量に出る。	おりものの増加、排尿痛、頻尿
性器ヘルペス感染症	女性に多く、感染するとウイルスが潜伏し、発疹を繰り返す。	陰茎包皮や亀頭などに複数の小さな水疱が出る。数日後に破れ、痛みをともなう浅い潰瘍となる。	外陰部に複数の水疱ができ、破れて潰瘍となる。強い痛みによる排尿困難や発熱をともなう。

梅毒の感染増加が止まりません

近年、梅毒患者の報告数が急増。男性は20代～50代、女性は20代が突出して増えています。性的接触の後、いつもと違う症状が現れるなどして、梅毒に感染しているか不安なときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。
梅毒の検査も保健所では無料・匿名で受けることができます。

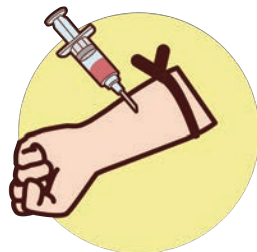
HIV検査

HIV感染に特徴的な症状はありません。

HIVに感染したかどうかを調べるためにはHIV検査を受けるしかありません。

HIV検査は、エイズの原因ウイルスであるHIVに感染しているかどうかを調べる検査です。

少量の血液（約5cc）を採って、血液の中にHIVに対する抗体があるかどうかを調べる「抗体検査」が一般的です。



HIV検査を受ける時機

HIV感染初期には、検査では分からない時期があります。

感染の有無をはっきり確認したいときは、感染の可能性のある機会から3ヵ月以上たってから検査を受けてください。

感染が非常に心配な場合は、感染の可能性のある機会から3ヵ月以内であっても、検査・相談を受けることで、ひとつの目安を得ることができます。ただし、もし陰性としてもその結果を最終的に確認するためには、感染の可能性のある機会から3ヵ月以上たってから再受検が必要となります。

HIV検査は保健所で受けられます

HIV検査は全国のほとんどの保健所で受けられます。しかも無料・匿名です。自分の住んでいる地域以外の保健所でも受けられます。

HIV感染の心配が少しでもあれば、検査を受けてください。保健所ではHIV感染症・エイズや性感染症に関する相談もできます。



HIV検査は全国の保健所等で無料・匿名で受けられます。



HIV検査情報サーチ



HIV感染は献血では分かりません。検査目的の献血は、絶対にやめましょう。

エイズの治療は？

HIV感染症の治療は作用の異なる3剤以上の抗HIV薬を併用して服薬します。いまのところ、からだの中のHIVを完全に取り除く治療法はありません。しかし、抗HIV療法の進歩によって、エイズを発症する前にHIV感染を知り、適切な治療を受ければ、エイズを発症することなく、感染前と変わらない日常生活を送ることができるようになりました。最近では1日1錠の服用ですむ薬や、2カ月に1回の注射薬も開発されています。

早期に治療を始めることにより、他の人への感染を防ぐこともできます。また、HIV感染症の治療には社会保障制度があり、経済的負担が軽減されます。

HIVはうつりません

効果的な抗HIV療法を受けて、血液中にウイルスが検出されないHIV陽性者からは、性行為によって他の人にHIVが感染することはありません。このことを、**Undetectable** (検出できない) = **U**ntransmittable (感染しない) といいます。

U=Uは、「予防としての治療」という考え方をさらに進めた、エイズに関する差別や偏見をなくすためのメッセージです。



2030年エイズ終結に向けて

UNAIDS (国連合同エイズ計画) は2030年までにエイズの流行を終結させるという目標を掲げ、そしてそれは可能だと強調しています。

日本では、UNAIDS目標に先立ち、2030年までに、●新たなHIV感染をゼロにする、●エイズ発症者をゼロにする、●エイズに関する差別や偏見をゼロにする、といった7つの目標のゼロを達成するためのプロジェクトも始まっています。最新の、正しい知識を身につけ、流行の終結につなげていきましょう。



ZERO transmission
in Japan by 2030

レッドリボン運動は30年を越えました

“レッドリボン（赤いリボン）”は、古くからヨーロッパに伝承される風習のひとつで、もともと病気や事故で人生を全うできなかった人々への追悼の気持ちを表すものでした。

この“レッドリボン”がエイズのために使われ始めたのは、アメリカでエイズが社会的な問題となってきた1990年ごろのことです。このころ、演劇や音楽などで活動するニューヨークのアーティストたちにもHIV感染がひろがり、エイズで死亡する人々が増えていきました。

そうした仲間たちに対する追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すため、“赤いリボン”をシンボルにした運動が始まりました。

この運動は、その考えに共感した人々によって国境を越えた世界的な運動として発展し、UNAIDS（国連合同エイズ計画）のシンボルマークにも採用されています。

レッドリボンは、あなたがエイズに関して偏見をもっていない、HIVと共に生きる人々を差別しないというメッセージです。

このレッドリボンの意味を知り、レッドリボンを身につけることによって、エイズのことをみんなで考えましょう。



エイズ予防財団電話相談



0120-177-812 携帯電話からは 03-5259-1815

祝日を除く月～金、午前10時～午後1時、午後2時～5時

公益財団法人エイズ予防財団では、HIV感染症・エイズに関する正しい知識の普及啓発、NGO・NPOへの助成金交付などを行っています。当財団の事業活動にご理解とご賛同をいただき、ぜひご支援をお寄せくださるようお願い申し上げます。